

家具

style-C シリーズ ダイニングテーブル

(株)三陽製作所



👍ココがいいね! 脚と天板の間に「隙間」を見せることでまるで天板が浮いているかのように見えるなどデザインの工夫と、それを実現した技術が高級感を演出している。
価格 36 万円～ (サイズやオーダーメイド対応によって変動)

「デザイン」と「技術」を融合した新しい家具づくり

(株)三陽製作所が設計・デザイン、製造を手掛けたのは高級家具シリーズ「style-C」(スタイルシー)のダイニングテーブル。イタリア製のセラミックタイルを使用した天板についた、板金加工で仕上げた独特の「脚」が特徴的だ。36万円～という価格設定にも関わらず2019年春の発売以降、1年弱で40台近くを販売している。同家具は静岡県にある家具メーカー、カコール(株)との共同開発。そのほかの家具や雑貨の企画も進行中だ。

板金だけで高級感のある脚を

「脚に使用した材料の板厚は4.5mm。バンダーで曲げていますが、角度の調整に苦労しました」とデザインをはじめ開発の中心を担った角道将人取締役が語る。脚はレーザー加工機で材料をカットし、バンダーで曲げ、溶接。単に鋭角に折り曲げているわけではなく、緩やかなカー

ブを描いた曲げ加工、また床につく下部も先端を内部に深く折りこんでいる。天板の重さは25kg以上あり、高強度で安定した脚を作る必要があった。

カコールからの共同開発の話を受けた際にあったのは「天板に見合う、高級感のある金属製の脚を」というもの。そのときから「パイプ」を使わず、自社の設備と技術を使い、板金加工のみで仕上げてみようと思っていた。

現場と二人三脚で

角道取締役は大学で機械工学や塑性加工について学んだのち、オフィス家具の設計からキャリアをスタート。その後、家具メーカーで家具デザインを手掛けた。そんな中で常に感じていたのは「デザイン」と「技術」を融合したモノづくりをやりたい、という思いだった。

「オフィス家具の設計をしていたころは図面を工場に渡して試

作が上がってくるのを待つのみ。現場の知恵と技術をダイレクトにデザインに生かすものづくりがしてみたかった。縁あって弊社に入社してからも、それが大きな目標でした」(角道取締役)
4.5mmの厚さともなるともちろん曲げ加工は難しくなる。デザイン上の希望と同社の技術で可能なギリギリのラインを現場と共に模索。加工メーカーだからこそできるデザインと品質を実現できた。

今後は得意とする板金加工や板鍛造を生かした自社製品を「技術」と「デザイン」の融合で生み出すことも目標の1つだ。



角道取締役

(株)三陽製作所 / 〒236-0034 神奈川県横浜市金沢区朝比奈町 138 / TEL : 045-781-5873



フェイスブックでも公開中!

<http://www.facebook.com/nikkankogyo.zasshi>